

高知県の原木生産量（令和 7 年）の公表について

高知県における令和 7 年の原木生産量について、お知らせします。

1 高知県の原木生産量（令和 7 年）について

令和 7 年の原木生産量は 729 千 m³ となり、令和 6 年と比べると 37 千 m³ の増（対前年比 105%）となっています。

その需要部門別の内訳は製材用で 389 千 m³、合板等用で 38 千 m³、木材チップ用で 156 千 m³ となっています。

また、木質バイオマス関連施設（木材統計調査の対象外）の原木入荷量は 146 千 m³ となり、令和 6 年と比べると 8 千 m³ の減となっています。

（単位：千 m³）

区 分		令和 6 年	令和 7 年	増減	備考
原木生産量 ① = (a) + (b)		6 9 2	7 2 9	3 7	
	木材統計 (a)	5 3 8	5 8 3	4 5	農林水産 省調べ
	製材用	3 8 6	3 8 9	3	
	合板等用	3 4	3 8	4	
	木材チップ用 ^{※1}	1 1 8	1 5 6	3 8	
木質バイオマス関連施設 (b)		1 5 4	1 4 6	▲ 8	高知県調 べ
	原木	1 5 4	1 4 6	▲ 8	
	(参考) 枝条等 ②	(1 0)	(7)	(▲ 3)	
(参考) 枝条等を含めた生産量 ① + ②		(7 0 2)	(7 3 6)	(3 4)	

※ 1 木材統計の木材チップ用の数値には、木質バイオマス関連施設への原木の入荷量は含まれていません。

〔集計方法〕

令和 8 年 6 月 12 日に農林水産省により公表された「令和 7 年木材統計」の素材生産量の調査対象は、製材工場、合単板工場、木材チップ工場、集成材工場、L V L 工場及び C L T 工場となっています。この統計には、県内 2 ヶ所で稼働する木質バイオマス発電所等への原木の入荷量が含まれていないため、平成 27 年から高知県が木質バイオマス関連施設の原木入荷量を調査し、これを加えて高知県全体の原木生産量として公表しています。

2 今後の取り組みについて

本県の令和7年の原木生産量は、円安やウクライナ情勢の影響による製紙用木材チップの国内産への置き換えに加え、近隣県の製材工場等の新規稼働や生産規模の拡大により、四国内の原木需要量が増加^{※2}し、生産意欲が高まった（皆伐の増加）ことで、平成24年以降では2番目に多い素材生産量となったものと考えています。

本県としては、皆伐の増加に伴い今後増加していく再生林も見据えながら、引き続き森林クラウドの活用や高性能林業機械の導入、効率的な作業システムの構築により、生産性の向上を図ってまいります。

併せて、再生林作業の省力化に向け、低密度植栽や下刈り回数の見直しにより、投下人役の縮減を進めてまいります。

こうした林業・木材産業の活性化につながる施策を着実に実施し、令和9年の原木生産量の目標である850千 m^3 の達成に、取り組んでまいります。

※2 四国の国産材需要量

令和6年：1,489千 m^3 → 令和7年：1,590千 m^3 （101千 m^3 増）